編　集　後　記

徳島赤十字病院 糖尿病・内分泌内科 近藤 剛史

2021年も新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の第３波で始まり、休むことなく第４波、第５波が襲来、現在はオミクロン株が猛威を振るい、影響はまだまだ続きそうです。それでも、想像を超えるスピードでウイルスのゲノム配列を解明し、コロナウイルスのスパイク蛋白をコードしたmRNAを脂質ナノ粒子でコーティングしたワクチン（mRNAワクチン）が開発されました。数か月で臨床試験を済ませて１年で実用化され、2021年２月には我々の手元に届けられました。mRNAワクチンの構想は以前からあったようですが、生命科学の進歩は本当に凄まじいと思います。2020年、国内にCOVID-19が上陸し、診断や治療が満足にできなかった頃を思い返すと、今は患者さんを入院で管理する一連の過程へのストレスも軽減してきましたし、治療に関しましても、効果はまだ十分満足とは言い難いですが、我々が使用できる武器は着実に増えつつあります。

１年延期されていた東京オリンピック・パラリンピックが2021年７月から９月に開催されました。無観客ではありましたが、コロナ禍で非常に厳しい状況であったにも関わらず、なんとか日程を完遂できたのは、一日本人として誇らしく思います。また大リーグでは大谷翔平選手が毎日のように活躍し、結果、前人未踏の成績でMVPを受賞するなど、明るい話題もありました。

コロナ流行後丸２年が経ち、ソーシャルディスタンスの観点から業種によっては在宅勤務や物流の無人化等が進み、私たちもオンラインでの面会、研究会や学会が劇的に増加しました。一方で医療業務に関しては、テレワークというわけにはいかず、当然のことながら患者さんと接触し、向き合う必要があります。こんな時代ですが、前を向いて地に足をつけて現状から逃げることなく、皆で頑張っていきましょう！

当院は断らない医療を実践する数少ない病院の一つで、毎年多くの患者さんを診療しています。そのため、診たこともないような新しい疾患に出会ったり誰も着目していなかった研究を新たに行ったりすることが可能な病院です。忙しいなかで、一つの論文を書き上げることは骨の折れる作業ですが、必ず、医療人としての能力を飛躍させるものと思います。本年も多数の寄稿、ありがとうございました。